

## 基本政策Ⅱ 心豊かで文化のかおるまちづくり

### 政策1 学習やスポーツを通じ生きがいを持てるまちづくり

#### ■現状と課題

##### ●地域が連携した生涯学習

地域社会の連帯感の希薄化や家庭・地域の教育力の低下が指摘されている今日、本市においては、転出入者の増加や核家族化の進行、単身世帯の増加などにより、地域に対して無関心な住民が増加している懸念があります。このため、今後は、地域住民が主体となって、地域について学ぶ機会を積極的に設けていくことが求められています。

##### ●多様化する学習ニーズと求められる生きがいづくりの場

市民アンケートによると、本市において展開されている生涯学習・スポーツ活動への市民満足度は充足傾向にありますが、これからますます多様化する学習ニーズに応えていくためには、活動を通じた自己実現をさらに支援し、生きがいや新しい価値観を発見する学習機会を拡大していく必要があります。

##### ●学んだことを活かせる環境づくり

本市においては、学習・文化活動やスポーツ活動で培った知識・経験を、まちづくりに結びつけていくことが地域の一体感を醸成することにつながる重要な取り組みであるものと考えられます。これからは一人ひとりが自己実現のために得た知識などを地域に還元し、まちづくりにつなげる仕組みづくりが求められています。



## ■ 施策の方向

### (1) 生涯学習の推進

市民が学び、支え合う生涯学習の場づくりを目指します。このため、学習機会などに関する情報を共有する仕組みをつくとともに、支援のための人材育成を進めます。

また、自ら学んだことを地域のために役立て、市民一人ひとりが真に豊かさやゆとりを実感できる生涯学習社会の実現に努めます。

#### [主要事業]

- ▶ 生涯学習情報および人材の充実
- ▶ 学びを地域活動へ活かす仕組みづくりの推進
- ▶ 生涯学習拠点の整備充実

### (2) 生涯スポーツの推進

市民がいつでも身近なところでスポーツができ、健康で活力ある暮らしがいつまでもできるよう、スポーツ参加機会の拡充とスポーツ指導者の確保・育成など地域における環境の整備を行います。

#### [主要事業]

- ▶ スポーツレクリエーション推進体制の充実
- ▶ スポーツ施設の整備

## ■ 政策の達成目標 **成果指標**

指標名	指標の説明	指標の算出方法	現況値		目標値
市が主催する生涯学習講座に参加した市民の数(年間)	生涯学習機会の利用状況を示す指標	市が主催する生涯学習講座への参加者数	15,000人	H16	30,000人
生涯学習のリーダーとなった市民の数	生涯学習の市民の目標の達成度を示す指標	社会教育施設等で指導者として活動した市民の数(ボランティアバンク含む)	200人	H16	500人
市が所有するスポーツ施設の利用者数(年間)	市民スポーツの利用状況を示す指標	市が所有するスポーツ施設の利用者総数	298,832人	H16	420,000人
公民館等の利用団体の構成員の数	生涯学習を生活の一部とした市民の状況を示す指標	1年間の各施設ごとの登録団体構成員数	3,500人	H16	7,000人
市立図書館の入館者数	図書館の利用状況を示す指標	市立図書館の年間総入館者数	605,474人	H16	750,000人
生涯スポーツを実践している市民の数(年間)	スポーツ事業への参加状況を示す指標	市又は体育協会が主催するスポーツ事業への参加者数	27,786人	H16	31,600人

### ■現状と課題

#### ●少子化への対応

本市の合計特殊出生率<sup>9</sup>は平成16年度現在で1.53と県の平均を上回っているものの、今後は緩やかに減少する傾向にあり、少子化による保護者の過保護や過干渉、家庭や地域における子ども同士のかかわりあいの希薄化が懸念されます。こうしたことから、保護者同士や子ども同士がかかわりあい、ともに学んでいく環境づくりが求められています。

#### ●適正規模校の維持

本市には小学校11校、中学校5校の合計16校があり、一校あたりのクラス数は小学校が16クラス、中学校が13クラスと、適正な規模が保たれています。今後は、確かな学力の習得と良好な人格形成を図るため、適正な学校規模の維持に努めるとともに、一層きめの細かい教育を推進していくことが求められています。

#### ●地域と学校の連携

県の中心部に位置し、急速な都市化が進んだ本市では、子どもたちの生活状況や教育環境も大きく変化しています。年代の違う子ども同士の遊びや、社会や自然に接し、さまざまな体験をする機会に恵まれず、本来そこで培うべきであった社会性や規範意識を身につけることができないでいる子どもの増加が懸念されています。これらの問題に対応していくためには、家庭、学校、地域が連携して、子どもたちを育てていく環境を整えることが大切です。



#### ●青少年を地域で育てる意識の醸成

本市では昭和40年代以降急速な都市化が進んだため、核家族化や生活習慣の多様化により、親子間・家族間あるいは地域とのふれあいの希薄化が懸念されています。すでに家庭・学校・地域・その他関係機関において、青少年健全育成に向けた多様な取り組みが行われ、一定の成果を上げていますが、青少年健全育成に対する地域社会全体の果たす役割として地域の子どもは地域で育てるという意識を一層高めていく必要があります。

<sup>9</sup> 合計特殊出生率

一人の女性が一生の間に産む子どもの数の目安として用いられ、一般的には15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計した統計で算出されます。

## ■ 施策の方向

### (1) 幼児教育の充実

保護者や地域の多様化するニーズに応じた幼児教育の充実・向上を図ります。また、核家族化や地域のコミュニケーションの希薄化の中での子育て支援を関係機関との連携により推進していきます。

#### [主要事業]

- ▶ 幼児教育環境の整備充実

### (2) 学校教育の充実

児童生徒の確かな学力を育む学校教育を推進するとともに、地域に開かれ、地域とともに心豊かな人間を育む特色ある学校づくりの実現に努めます。また、快適な学習環境の整備と児童生徒の安全確保の充実を図りながら、健全な心と身体を培うという視点にたち、食育を中心とした学校給食の充実に努めます。

#### [主要事業]

- ▶ 個性や能力の伸張を図る特色ある教育の推進
- ▶ 開かれた学校の推進
- ▶ 地元と連携した食育<sup>10</sup>の充実
- ▶ 学校教育環境の整備および充実
- ▶ 児童生徒の安全確保

### (3) 青少年の健全育成

思いやりの心を持ち、心身ともにたくましく主体的に行動できる資質や能力を身につけた青少年を育成するため、地域活動への参加を促すとともに、青少年による自主的団体・グループの育成・支援を行います。また、青少年が健全で明るく育つことができる環境づくりを推進し、非行防止に努めます。

#### [主要事業]

- ▶ 青少年が地域で活動する場の充実
- ▶ 青少年の相談事業の推進
- ▶ 青少年を守る環境の整備

#### <sup>10</sup> 食育

さまざまな経験を通じて「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てることを言います。

## ■ 政策の達成目標 (成果指標)

指標名	指標の説明	指標の算出方法	現況値	目標値
幼児教育に対する満足度	公立幼稚園教育の充実度を示す指標	幼児教育に対して満足と回答した保護者の数÷アンケート回答総数×100	—	後年設定
学校が楽しいと感じる児童・生徒の割合	学校教育への親近感や魅力度を示す指標	児童・生徒を対象とする意識調査において、学校が楽しいと答えた者の割合	—	後年設定
授業が分かりやすいと感じる児童・生徒の割合	学校教育による学力の習得状況を示す指標	児童・生徒を対象とする意識調査において、授業が分かりやすいと答えた者の割合	—	後年設定

※現況値が「—」で表示してあるものは現況値が明らかでないことを表し、目標値に「後年設定」と表示してあるものは実施計画等において望ましい目標値を設定していく予定であることを示しています。

## ■現状と課題

### ●芸術文化に親しめる場の整備と機会の創出

市民アンケートによると、本市の文化施設は利用しやすいとの評価が大半を占め、市民の文化活動の活発さがうかがえます。しかし、芸術・文化活動の基礎となる展示・発表の場や、質の高い芸術に触れることができる施設・機会が十分とはいえません。

芸術文化を通じた市民の活動をさらに活発にするため、芸術文化に親しめる場の整備と、機会の創出が求められています。

### ●地域の誇りと郷土意識の醸成

市内各地域に根付く歴史や文化は、生活を豊かにする地域の個性として非常に重要です。市内には史跡や文化遺産が多数あり、これらの保存・活用を通じて、誰もが日常生活の中で地域の歴史を実感し、文化を享受できる環境を整備していくことが必要となっています。



大久保の太々神楽

## ■ 施策の方向

### (1) 芸術文化の振興

豊かな創造性と個性あふれる文化のまちを目指し、高度で多様な市民ニーズに対応した芸術文化環境づくりを進めます。また、市民主体による本市独自の芸術文化の醸成を図り、心豊かに充実した生活を送ることができる環境づくりに努めます。

#### [主要事業]

- ▶ 新たな芸術文化の醸成および市民文化活動の充実
- ▶ 高度で多様な芸術文化の鑑賞機会の充実

### (2) 文化遺産の保護・活用

先人たちの残した本市ならではの貴重な文化遺産の保護・活用を通し、特色あるまちづくりを進めていきます。また、地域の歴史とふれあう機会や場所を創設することにより、地域の誇りと郷土意識の醸成を図ります。

#### [主要事業]

- ▶ 歴史や文化遺産とふれあう環境の整備
- ▶ 文化遺産の調査・保存の充実

## ■ 政策の達成目標 (成果指標)

指標名	指標の説明	指標の算出方法	現況値		目標値
定期的に親しむ芸術文化活動(鑑賞のみの場合を含む)がある市民の割合	芸術文化活動の振興状況を示す指標	市民アンケート調査において、「定期的に親しむ芸術文化活動がある」と答えた者の割合	—		後年設定
伝統芸能の継承者数	地域固有の文化の継承の状況を示す指標	無形民俗文化財に指定された伝統芸能の継承に携わっている者の数	56人	H16	80人

※現況値が「—」で表示してあるものは現況値が明らかでないことを表し、目標値に「後年設定」と表示してあるものは実施計画等において望ましい目標値を設定していく予定であることを示しています。



光照寺 薬師堂

## ■現状と課題

### ●進展する国際化

近年の交通・情報通信網の普及や技術革新により、さまざまな分野でグローバル化<sup>11</sup>が進んでいます。本市に住む外国人も年々増加し、平成16年現在で市の総人口の約2%と、県の平均を上回っています。国際化が進展する中で、市民一人ひとりが多様な価値観や異なる文化を受け入れ、ともに暮らしていく国際性豊かな地域社会が求められています。

### ●開かれた地域社会の形成

多様な市民ニーズに応えていくためには、幅広い国際化の視点が欠かせません。このため、市職員の意識啓発はもちろん、市の施策全体に国際感覚を取り入れることが大切です。さらに引き続き、国際交流関係団体・機関との連携協力のもと、さまざまな交流が行いやすい環境づくりと、市民レベルでの国際交流を推進する、地域社会の形成が求められています。

### ●外国人による日本文化の習得と共生社会の構築

本市に居住する外国人が地域社会の一員として生活していくには、地域での慣習や生活マナー、ルールを理解することが大切です。このため、同じ地域の中で暮らす市民として、積極的な交流を通して多様な文化や考え方を学び、共生を図っていく必要があります。



<sup>11</sup> グローバル化

資本や労働力の移動が活発化し貿易や投資が増大することによって、世界における経済的な結びつきが深まることを言います。

## ■ 施策の方向

### (1) 国際交流の推進

市民一人ひとりが国際感覚を身につけると同時に、姉妹都市や姉妹校との国際交流活動をさらに充実させ、国際交流のさまざまな取り組みが地域に根づいていくよう、市民レベルでの交流促進や国際交流を担う人材の育成を図ります。

#### [主要事業]

- ▶ 姉妹都市・姉妹校との交流の推進
- ▶ 国際交流活動ネットワークの支援

### (2) 在住外国人の社会支援の推進

互いに異なった考え方や習慣、文化の違いを理解することにより、一人ひとりが「市民」としての意識をもち、お互いに個性を尊重しあい、だれもが住みよい社会を形成することを目指します。

#### [主要事業]

- ▶ 在住外国人に対する案内・相談体制の充実
- ▶ 在住外国人と地域住民との交流機会の提供

## ■ 政策の達成目標 (成果指標)

指標名	指標の説明	指標の算出方法	現況値		目標値
市内の国際交流団体の会員数	国際交流事業への市民の参加状況を示す指標	市内の国際交流団体に加入している市民の数	118人	H17	210人
国際交流団体の事業に参加した市民の数(年間)	国際交流事業への市民の参加状況を示す指標	国際交流団体が主催する国際交流事業に参加した市民の数	1,060人	H16/9～ H17/8	2,500人